

公益財団法人として一年の歩み



菩薩道のところ —自信教人信— ともに世界平和に 向て

公益財団法人 国際仏教文化協会 理事長 佐々木 恵精

公益財団法人に移行して一年

本誌の前号「I A B C N E W S 49」に報告しましたように平成二十五年四月に公益財団法人への移行認定を受け、一年半余を過ぎました。二十六年三月に、そのご報告として「公益法人認定の祝賀の会」を開き、多くのご支援いただきました。ご参集いただきました。その折にも「新たな一歩を踏み出すことになった」と申し上げましたが、事業内容については、従来からの事業活動を引き継いでいますので、ヨーロッパの仏教サンガ(念仏サンガ)の支援が中心ですが、日本に培われてきた、大乘仏教の持つ現代的意義を究明し、欧州等の人々の研究に便宜を与え、東西文化の交流を図り、もってわが国の発展と国際平和に寄与すること」ができるようにとの願いをもって支援対象の範囲を拡大しつつあるところです。

仏教のところ—菩薩道—

大乘仏教は菩薩道がそのかなめとなりますが、仏教は本来「自己解脱」すなわち自らをまともに見つめ自己の真実のあり方、自己のさとり、安寧を求める道であるといえます。その上で、同じ人間として、同じ命あるものとして、他の者を想い、他の者のさとりを、他の者の安寧をも求めるのが大乘菩薩道であるといえます。鎌倉期の浄土教の祖師・親鸞の名著「顕浄土真実教行証文類」に引用される「自信教人信」(自信じ、人に教えて信じさせること)のこ

るといえるでしょう。

最近、核家族化が進み個人中心の生き方が強くなっており、歪んだ個人主義—他人のことには無関心で、自分だけ良ければ「良し」とする風潮—が強くなっているように思われますが、苦悩の世に生きる同じ人間として、仏教のころをいただきたいでもに敬いともに助け合う世界が広がることを願うものです。当協会の活動も「自信教人信」のころを体し、世界平和を願って事業を推進していききたいとの願いをもって、事業を拡充していく所存であります。

ご支援へのお願い

そこで、当法人の事業活動の今後についてですが、そのすべては、ご賛同いただいている方がたの浄財によって支えられております。経済状況の厳しい中でお願ひ申し上げるのが心苦しいのですが、当協会の財源がまことに乏しい現況をご理解いただいで、ぜひともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、新制度になり公益財団法人の認定を受けましたことから、公益財団法人事業支援のご寄付については、所得控除として寄附金控除の適用を受けます。ご寄付いただいた場合、当方よりお送りする領収書を税務署などに提示いただくと、税額の控除を受けることが出来ます。公益法人となつた特典を是非とも生かしていただきたく存じます。

一〇二四(平成二六年)十二月